

● 現幹部最終公演

リーダー演技披露

● 幹部交代式

- 一、開式の辞
- 二、来賓挨拶
- 三、主将挨拶
- 四、監督挨拶
- 五、次期幹部発表
- 六、幹部交代の儀
- 七、新幹部代表挨拶
- 八、激励の言葉
- 九、校歌斉唱
- 十、閉式の辞

全員で記念撮影

校歌

作詞 坪内逍遙
作曲 信時 潔

- 一、むかしは植樹の名どころ染井
とりわけ紅葉の錦に知らる
今は学園ここに開けて
国の柱の苗木を育つ
あわれれら誇りの本郷学園
- 二、ああ柱苗木の青年われら
つとめば未来に何えせざらむ
さらば固めよ処世のもとい
こころは剛毅に身は強健に
あわれれら誇りの本郷学園

基本理念

本会は本学の建学の精神に立脚し、
本学全体にその発揚と振起を促す模
範的な活動を通して本学の発展に尽
力するとともに、生徒相互の健全な交
流を通じ、人格の陶冶及び学校生活の
向上に精励する。

指導部訓

- 一、紳士たれ
- 二、万能^{マルチ}たれ
- 三、リーダーたれ

応援委員会の活動を経験して

初代主将 増本洋行



応援委員会を経験して、一番に言えることは本郷という学校を好きになれたことです。もちろん、嫌いだったわけではありませんが、以前は強い母校愛を持ってはいませんでした。しかし、体育祭や野球部の大会、本郷祭、壮行会といったような場での活動を通じて、本郷生と一つになるということが経験していき、感動を覚えることが多くなりました。そして、本郷が好きだと思えるようになりました。

学校を愛せるようになると、考え方が変わっていきました。学校の生徒、先生、規則、校舎、もの、全てに思いやりを持って接するようになりましたし、常にプラスに働きかけようという意識も芽生え、何ととっても一つ一つのことを有意義だと感じながら、また意義を見出しながら行動出来るようになりました。楽しく生きる方法を覚えたのです。

今振り返ってみて、高校生活を応援委員会に費やし、このことを学べたことを、僕は誇りに思っています。

初代副将 山田駿也



応援委員会指導部を経験して、一生懸命に人を応援できる熱い心を持てるようになったと思っています。

僕は小学校、中学校と一生懸命にやるのが苦手でした。何かを成し遂げたいと思っても、いつもある程度のところ諦めていました。指導部では体育祭や部活動応援など様々な場面で応援する機会があります。そのような場面で応援を通して、一生懸命

に頑張る人とたくさん触れ合い、そんな人たちを応援していくうちに自然と自分も一生懸命になっていました。一生懸命にやることにはいつも感動がついて回り、

そしてそれらは今でもとてもいい思い出です。

人を応援することで、その人たちから感動をもらい、さらに自分自身を人間的に成長させる事ができました。このような機会を高校で得られた事に本当に感謝しています。応援委員会指導部がこの先何十年も続いていくことを願っています。

初代リーダー部長 斎多遼太郎



私がこの応援委員会の活動の中で得たものは、「他者の視点から物事を考える」ということ、つまり外からの自分の見え方を客観的に予測・観察・分析するということです。私は、この幹部として約三年の間に様々な経験をしてきました。経験不足から先のような考え方を欠き、自分たちの思うような応援を展開することが出来ないということもありました。

しかしながら、そういった一見成功だとは思えないような活動の一つ一つが、物事を考える際の大切な土台となっているのだと実感しています。また、応援という行為には必ず「他者」が存在します。競技応援の場であれば、それは応援する対象のことであり、客席の一人一人のことを指します。一方、演技披露のような場であれば観客の方々ということになります。こういった様々な「他者」にどう働きかけていくのかということとは、応援を経験しなければ深く考えることは無かったことと思います。このような、「他者」について考える機会をたくさん与えて下さった多くの皆様に深く感謝申し上げます。三年間誠に有難うございました。

初代総務部長 加藤遼一



高校一生の時に本郷学園応援委員会を立ち上げ、そして高校生活をここでの時間に費やしました。はじめは知らないことばかりでしたが、総務部長、広報室長という役職柄もあって様々な作業等を行ってきましたし、役職外のことも多くのことをしてきました。そのお蔭で、非常に多くのことが身に着きました。これは仕事の部分だけではなく、もつと本質的なところからです。こういうことを学ぶことが「生きた勉強」なのだと思います。

年上、年下の人もよく交流するようになり、それは大げさに言ってしまうえば、生きている世界が多少ながらも広がったような感覚でした。

この三年間でいっぱい怒られ、よくへこみ、そしてたくさん笑ってきましたが、こういうことの一つ一つが今となってはとても懐かしく感じます。人を本気で応援する、という行為もこの活動をしてこなければ、到底できるようにならなかつたと思います。これがいかに楽しいか、そしてどれほどまでに気持ちいいことか。多くの人に感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に・・・

恵まれた 青春時代を ありがとうございます！

初代統制長 渡邊大雅



私は、これまで応援委員会指導部の一員として活動してきて、数多くの事を学んできましたが、その中でも、社会に出て役立つと思われることを学べたのが、入って良かったと思える一番のポイントです。私は、入部する前まで、人前で何かをすることがあまり得意ではありませんでした。失敗するのを恐れていましたし、恥ずかしさもあったのでしよう。

しかし、この委員会の活動の中で、演技を披露したり、人前で話をしたりする機会が増え、勇気を持てるようになり、恥を捨

てられるようにもなりました。この二つに関しては、他の部活などに属していたのでは身につかなかった部分だろうと思います。このように自信がついたことをとつても、この委員会に入る決断は正しいものだったと確信しています。ここで学んだ経験をもとに、次のステップへ進んでも頑張っていきたいと思えます。

初代旗手隊長 酒井秀哉



いよいよ幹部として最後の日になりました。本会で様々な経験をさせていただいた中で私が学んだ一番大きなことは「何事も誰かの支えの下で行っている」ということです。体育祭、本郷祭、壮行式等のどのイベントをとつてみても、教職員の方々、生徒会、吹奏楽部等たくさんの方々の方々の協力の下で行っています。どれも誰かの協力が必要不可欠で、本会の力だけでは為し得ません。当たり前のことと思

えますが、普段は誰もが忘れがちで、私は実際に渉外長という役職を通じ、外部の方々とは渉外させていただく中で協力して頂けていることの有難みを強く再認識致しました。個人的なことに関しても他の幹部、後輩、家族の協力などたくさんの方々のおかげで、私は本日まで活動を続けることができました。今まで支えてくださった皆様に深く御礼申し上げますとともに、今後とも本会のご支援のほど宜しくお願い致します。